



kakeruyume
武蔵野市立第五小学校
学校だより 10月号
令和8年10月1日

セカンド・プレの新たな試み

校長 鈴木 健太郎

学校ホームページ
「学校生活の様子」

二次元コード



朝晩の涼しさに秋の訪れを感じる一方、すっきりしない雨の日も続いています。しかし学校では、運動会練習が始まり、子どもたちの元気な声が響いています。

さて、9月に行った2つの宿泊行事では、昨年度とは異なる新たな試みにそれぞれ挑戦しました。

4年生のプレセカンドスクールでは、残念ながら悪天候のため富士山五合目へ行くことができず、代わりに「ふじさんミュージアム」と「SDGs まなび館」を訪問しました。子どもたちにとって事前の予備知識がない場所でしたが、展示に向き合い、熱心にメモを取り学ぶ姿が見られました。

実は今年度、毎年2日めに行っている「富士湧水の里水族館」「森の学習館」の滞在時間を延ばしました。これは、児童の事前学習の様子から「よりじっくり現地で学ばせたい」という教員の思いによるものです。実際、森の学習館の学芸員の方から学びに向かう姿勢をお褒めいただくほど、自ら課題解決に取り組む姿は素晴らしいものでした。

5年生のセカンドスクールでは、魚沼市立湯之谷小学校との交流が大きな試みでした。事前にオンラインで両校をつなぎ、東京と新潟の暮らしについての疑問を出し合いました。当日は、それぞれの疑問に答える形で交流会を行いました。教科書やインターネットでは感じられない、リアルな声を聞くことができ、大きな学びとなりました。

宿での生活でも新たな試みを行いました。夜の宿長ミーティングです。本部宿の教員と6つの宿に分かれた児童をオンラインでつなぎ、各宿での成長や課題、今後の予定、思い出の会に向けた準備の進捗などをリアルタイムで共有しました。分散して生活する中でも情報を共有できたことで、その後の生活にもしっかりと活かすことができました。

今回は児童の学びに向かう姿勢を大切に、リアルな体験とICT機器のよさを生かした新たな試みを行いました。これからもよりよい教育活動の推進を目指し、新たな試みを考えていきたいと思っています。

【悲しいお知らせです】ウサギのシロが亡くなりました

本校の旧校舎の時代から、長く児童とともに過ごしてきたウサギのシロが先日亡くなりました。8歳という高齢でしたが、毎朝昇降口で子どもたちを迎えてくれ、休み時間や放課後も、シロのまわりには自然と子どもたちが集まっていました。

この悲しい知らせは、9月28日の全校朝会で伝えました。突然のことに児童からは静かなどよめきが起こりました。特に飼育委員会の児童はシロを大切に思い、日頃から細かな体調の変化にも気付いてくれていただだけに、受け止めたショックや心の痛みも大きかったことと思います。朝会では全員で黙祷を捧げ、シロへ感謝の気持ちを伝えました。飼育委員会の児童は現在、「改めてシロにどう感謝を伝えるか」「みんながシロを忘れないためにどんな取り組みができるか」を考えてくれています。これまで児童とともにお世話をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。



第4回 開かれた学校づくり協議会報告

9月25日(金)の開かれ、学びの時間は8月に文部科学省から出された次期学習指導要領の審議まとめを共有し、これからの教育の方向性について学びました。

熟議の時間は前回の「あんなこといいな できたらいいな」の結果を活用し、実際に今年度「五小開かれ」としてどんなことをやっていくか意見を出し合いました。地域・保護者・学校のつなぎ役となるよう、五小を取り巻くいろいろな方々や団体について共有できるような紙面を作り、それぞれの取組を知ってもらう一助にしてはどうかと考えています。 次回は11月4日(水)に行います。



10月の生活目標

当番や係の仕事を

しっかりしよう

学校では、当番や係、委員会、実行委員など子どもたちそれぞれに役割があり、学級や学年、学校のために責任をもって取り組んでいます。自分の役割を自覚し、自分がみんなのために役立っている経験をすることや、感謝されることにやりがいを感じ、自ら行動できる力を育めるように、様々な場面で教職員一同サポートすることを心がけています。ぜひ、ご家庭でも年齢に応じて、何かできることを考えて託し、「ありがとう。」と伝えてみてください。